

令和 3 年度 墨田区立墨田中学校 経営計画書

校長名 杉浦 伸一

学校目標	<p>幸福な生涯を実現し、知識基盤社会を生き抜く人格と力量の修得のため、人権尊重の精神と社会貢献の精神を基調として、知育・徳育・体育の調和のある豊かな人間教育を目指して、次の教育目標を掲げる。 「自ら学び、心豊かで、たくましい」</p>
目指す学校像	<p>1 確かな学力を身に付け、自ら考え、主体的に行動する生徒を育成する学校                  2 自他の人権を尊重し、思いやりや規範意識など道徳的实践力と自尊感情が育つ学校                  3 健康の保持増進や生徒がたくましく生きるための健康や体力向上に努める学校                  4 保護者・地域と連携を図り、地域人材を活用してキャリア教育の充実が図れる学校                  5 新型コロナウイルス感染状況下において、生徒や教職員の命・安全・健康を第一に考え、教職員が一丸となってこの局面を乗り越えられる学校</p>
目指す子供像	<p>1 社会の一員としての自覚をもち、社会に貢献しようとする生徒                  2 自ら学び続けようとする意欲を持ち、自ら考え、判断し、主体的に行動できる生徒                  3 人権尊重の精神をもち、他者へのいたわりをもって行動できる心豊かな生徒                  4 自らの健康に関心をもち、健康で体力のある心身ともにたくましい生徒                  5 社会の基本、あいさつのしっかりできる生徒</p>
目指す教師像	<p>1 指導の工夫改善を図り、効果的に生徒の学力を伸ばす教師                  2 組織の一員として学校経営に進んで参画する教師                  3 生徒、保護者、地域と信頼関係を築き、より良い学校や地域を築こうとする教師                  4 生徒に寄り添い、最後まで諦めない教師</p>

項目	取組の視点	取組指標	成果指標
各教科指導等	<p>確かな学力を育てるための、分かりやすい授業の実施等</p>	<p>◎教師が授業力を向上し、学習指導の効果を生み出す「墨中スタンダードの研究」を5つの視点で進める。</p> <p>○授業で「めあて（目標）」の明示、学習の振り返りを実施する。                  ○視覚的にわかりやすい授業（ICT機器を活用した授業を行う。）                  ○学び合い対話的な授業と補充授業の充実（言語活動を重視した授業を行う。また放課後を利用し補習や発展学習の講座を開設する。）                  ○授業規律の徹底（授業の始めと終わりの挨拶をしっかりと行う。全校朝読書を実施し、1日のスタートを落ち着いた場で始め、努力目標として、読了した冊数の合計が1万ページの読書量を提示する。また共読を実施し、対話力を高める。                  ○家庭学習の充実（自主学习ノート、ふりかえりシート及びロイロノート等を一人一台タブレット</p>	<p>◎生徒及び保護者の授業に関する調査項目において肯定的評価が75%以上になる。</p> <p>○区学力調査におけるDE層の割合が全教科で40%以下になる。                  ○黒板に常に「めあて（目標）」の明示がされている。                  ○授業でICT機器を有効活用できる90%となる。                  ○各教科の学力調査の結果が前年度よりアップする。放課後の学習教室を年間40回以上実施する。                  ○生徒がチャイム着席を呼びかけチェックし、教師が授業ごとに態度を評価するなど、生徒による授業規律意識を各学年3名以上にする。                  ○自主学习ノート、ふりかえりシート及び一人一台タブレットを85%以上の生徒が家庭学習に活用する。</p>

様式 2

		の活用を通して家庭学習の習慣化を図る。)	
	特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等	<p>◎不登校対策と特別支援教育として、特別支援校内委員会を中核にして、ゆうあい教室やSSルーム等の様々な対策、連携を行う。</p> <p>○特別支援校内委員会を週一回開催し、各学年の情報共有や個々の生徒のケース会議、校内適応指導教室の入室審査、関係機関へつなぐ見立てなどを行う。</p> <p>○特別支援学級と連携・協力して、通常における特別な支援が必要な生徒への支援を行う。</p> <p>○通常学級で合理的配慮を必要としている生徒がゆうあい教室で適切な支援を得られるように連携する。</p> <p>○外部機関の適応指導教室や校内のSSルームと連携し、不登校生徒の教室復帰をめざす。</p>	<p>◎本校の不登校者数を半減させ、保護者の肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>○校内委員会の構成は、養護教諭をコーディネーターとして管理職、各学年の特別支援コーディネーター、特別支援学級教諭、SCとする。</p> <p>○通常学級における学習の理解が十分でない生徒に対して校内委員会等で協議し保護者の理解を得たうえで、交流学習を行いながら、学力の向上を図る。対象生徒の保護者から肯定的な評価や感謝がある。</p>
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等	<p>◎ふれあい学習を通してキャリア教育の充実を図る。</p> <p>○ふれあい学習発表会を通して、自分の言葉で説明する力をつける。</p> <p>○農業体験、保育体験、職場体験、上級学校訪問等の体験学習を通して自己の進路に対する意識を高める。</p> <p>○進路指導説明会を2回実施し、学校だよりの記事など機会をとらえて保護者にも進路指導とキャリア教育の関心と理解を高める。</p>	<p>◎ふれあい学習及び発表会の取り組みに対して、生徒及び保護者の好意的評価を80%以上にする。</p> <p>○学力調査で国語の学力と思考力・判断力・表現力の力が昨年度よりも増す。</p> <p>○全ての学年の生徒が体験学習を基に自己PRを書くことができる。全生徒が体験で得られたことに基づき発表や作文で将来の夢や希望を語れるようになる。</p>
	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等	<p>◎校内外の研修会への参加</p> <p>○校内研修会、研究会等で研究授業を実施し、積極的に議論する。</p> <p>○指導教諭の授業参観や研究会の研究授業等へ参加し、OFFJTで学んだことはICT等を利用して校内に伝達講習する。</p>	<p>◎教師の資質向上が図れたと思う教師が8割いる。</p> <p>○年間6回以上の研究授業を行う。</p> <p>○指導教諭の授業参観へ10名以上派遣する。</p> <p>○全教員がteams等のネットワークを使って校務の効率化を図る。</p>
生活指導等	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等	<p>◎落ち着いた授業の環境作り</p> <p>○チャイムと同時に授業を始めるなどの取組を通して授業規律の確立を図る。</p> <p>○日常の観察や生徒アンケート(年間4回)等を通して、いじめの早期発見、解消に取り組む。</p> <p>○適応指導教室(SSルーム)、特別支援教室について、特別支援校内委員会を通して運営し、不登校や不適応の課題を抱えた生徒を支援し、よりよい学校生活を送れるようにする。</p>	<p>◎生徒及び保護者の好意的評価を75%以上にする。</p> <p>○生徒及び保護者の肯定的評価を75%以上にする。</p> <p>○不登校出現率を昨年度の12名(2.8%)を下回る出現率にする。(本年度は12名以下にする。)</p> <p>○不登校生徒から複数名教室復帰させる。</p> <p>○発生した問題行動に対して90%以上の沈静化を図る。</p>

様式 2

		<p>○生活指導部会または特別支援校内委員会でケース会議を開くなどして関係諸機関と連携し、組織的に問題解決をする。</p> <p>○教師が生徒に寄り添い、最後まで諦めない姿勢で指導を行う。</p>	
	<p>基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等</p>	<p>◎各教員が信頼関係に基づいて一人一人の生徒を大切にすることを旨とした指導を充実させる。</p> <p>○生徒の活動記録（デイリーライフ等）を通じた個別指導、担任と副担任の複数による給食指導などの複数の視点による指導をする。</p> <p>○スクールカウンセラーが全校生徒の中で早期に悩み・問題のある生徒を把握する。</p> <p>○学年、学校行事、生徒会活動、総合的な学習の時間、地域の行事など「ふれあい学習」における体験的な活動との関連も図り、生徒の心を深める指導の充実に努める。</p> <p>○生徒が地域の方々にもしっかりとあいさつができるよう、教師が自らお手本を示し、普段の学校生活の中で、あいさつの励行をする。</p>	<p>◎保護者の肯定的評価が 75%以上になる。</p> <p>○生徒及び保護者の肯定的評価を 75%以上にする。</p> <p>○毎日の生徒記録や行動から、家庭や友人関係の悩みを発見し家庭と連携して解決につなげることができる。</p> <p>○スクールカウンセラーの全員面接を 1 年生に実施する。2.3 年生にグループ面接を実施する。</p> <p>○学期末の生徒の生活アンケート等で基本的な生活習慣に関する項目の肯定的な評価が 80%になる。</p> <p>○保護者や地域の評価に、あいさつに関する好意的なコメントが示される。</p>
	<p>安全を確保するための取組等</p>	<p>◎計画的な防災訓練・安全指導の実施</p> <p>○健康観察と施設の消毒をしっかりと行い、生徒と教職員を新型コロナウイルスの感染防止をする。新型コロナウイルス感染防止の観点から、三密を避け、本校の新しい学校生活様式を確立し、安全な生活を送れるようにする。</p> <p>○避難訓練に地域や消防署の方を招き防災意識を高める。</p> <p>○生徒会役員を中心とした自主防災組織をつくる。</p> <p>○命の授業（3年）、セーフティ教室、薬物乱用教室、交通安全教室等の機会をとらえて、自他の安全への意識を高める。</p>	<p>◎生徒に自助・共助の意識が育つ</p> <p>○本校の新しい学校生活様式を生徒が理解し、落ち着いた学校生活を送れる。</p> <p>○地震・津波・火災・大雨による河川氾濫等を想定した避難訓練を月 1 回必ず行う。</p> <p>○各行事の生徒アンケートで肯定的評価が 70%以上となる。</p> <p>○地域と連携した防災訓練を年間 1 回以上行う。</p>
<p>学校の管理運営</p>	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等</p>	<p>◎意思決定組織の改善を行う。</p> <p>○職員会議に十分練られた案件を伝達することで学校運営がすすめられるアクティブな学校組織を構築する。</p> <p>○主幹教諭・主任教諭がリーダーシップを発揮して、各分掌の進行管理を適切に行う。</p> <p>○議案の情報共有、提示、伝達の迅速化を図る。</p>	<p>◎教員による学校評価の組織的対応に肯定的評価が 70%以上になる。</p> <p>○企画運営会議、教務部、学習進路部、生活指導部、特別支援教室校内委員会を週 1 時間設定し、議案を練って提起する。</p> <p>○ICT で teams 等を使った情報交換と周知徹底が教職員に 90%以上図れる。</p> <p>○案件については前日までに teams 又は机上に配付する。</p>

様式 2

	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等</p>	<p>◎学校目標と生徒の実態に応じた、学年・学級目標の設定 ○生徒対象のアンケートや作文から生徒の実態を把握して学校教育目標とすりあわせ生徒に分かりやすく説明し、適切な学年・学級目標を設定する。</p>	<p>◎年度末に行う、各目標に対する達成度が75%以上となる。 ○生徒対象のアンケートを実施する。 ○各行事の生徒アンケートを実施する。</p>
	<p>教育環境・設備等の整備状況等</p>	<p>◎8年経っても廊下がびかびかきれいな校舎を維持する。  ○生徒ボランティアによる清掃活動を年2回実施する。 ○学校管理員と施設管理員、教育委員会庶務課と連携し、不良箇所の早期発見と改善を図る。</p>	<p>◎来校者の感想に「きれいな校舎」という言葉が多く書かれる。  ○校内だけでなく校外にも生徒が環境美化意識を持つ。 ○校内の不良箇所は1週間以内に改善する。</p>
家庭・地域連携	<p>教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等</p>	<p>◎学校の情報発信と透明性の促進 ○学校日より、学年日より、ホームページ、情報配信メール等を活用した情報公開を行い、学校の様子がよくわかる透明な学校をつくる。 ○学校公開日を設けられない中、説明会等で映像を使って様子を見ていただけるようにする。</p>	<p>◎多様なメディアによる保護者・地域への情報発信 ○ホームページのアクセス数を常時区内5位以内にする。 ○ホームページを月5回以上更新し、保護者だけでなく地域のアクセス数も増加する内容を盛り込む。 ○地域・保護者の好感度が75%以上になる。</p>
	<p>保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等</p>	<p>◎生徒を共に育てる地域との連携をすすめる。 ○ふれあい学習、保育体験、職場体験等が実施できない中、次年度以降で協力いただけるように信頼関係を維持する。 ○民生児童委員等、生徒を見守る地域の人材と密接に連携する。 ○防災拠点として地域と連携をする。</p>	<p>◎地域・保護者の支援に対し生徒の成果を積極的にお伝えし、感謝の気持ちを育てる。 ○学校運営連絡協議会や育成委員会で学校の様子を具体的に伝え学校内外で生徒の健全育成について協議する。 ○民生児童委員や主任児童員と連絡会を持ち、生徒の地域での生活や家庭生活を支援できる体制をつくる。</p>